

## ★幹事改選についてのお願い★

2016～2018年度、幹事の改選を下記の要領で行いたいと思います。会の運営のために、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。なお、他薦自薦は問いませんので、会の運営に積極的に関わっていききたいという方は、ぜひお名前をお書きください。

## 記

- 1 投票締切日 2016年5月13日(金)
- 2 開票 締切日到着分までを次の通り公開で行います。
  - (1)日時 2016年5月14日(土)午後2時から
  - (2)場所 同好会事務局(しげい病院1階 倉敷昆虫館内)
- 3 投票方法

同封の投票用紙に、別紙会員名簿の中から5名選んで連記してください。投票用紙は、表書きのない内封筒に入れ、密封した物を同好会宛の表書きのある返信用封筒に入れ、締め切り日までに届くように郵送してください。返信用封筒の裏側には必ず住所、氏名、会員番号を明記してください。(事務局)

## 年末例会報告

2015年12月23日(水) 13時から16時30分

しげい病院5階ののかわせみホールで行いました。はじめに、8名の方のスライドでの発表がありました。(以下詳細)その後、懇談のあと、懇親会を行いました。

## ◆スライド映写発表要旨◆

## 「オオルリボシヤンマの産卵」脇本 浩氏



鬼城山ビジターセンター(総社市黒尾)から北西へ約100m離れた林の中にヒルムシロと谷水の豊富な名もない小さな池(総社市奥坂)がある。2015年9月10日、ゲンゴロウ類を探してこの池を訪れたのが本種との出会いであった。小さな林の中の池に3頭もの本種が警戒することなく

仲良く(?)産卵している様子を夢中でカメラに納めた。

過去に何回か本種を撮影したこともあったが、このようなことは初めてで、よほどこの池が気に入ったのだろう。同時に他に適した池がなくなりつつあるのではないかと不安な気持ちにもなった。10月4日に目撃したのが最後になったが、この間10回程度産卵を目撃した。翌年もオオドリボシヤンマの美しい姿に出会えることを祈るばかりだ。

### 「オオスズメバチの巣とその居候者の採集」 奥島雄一氏（発表者）・加藤学氏

2014年12月、総社市で営巣終了が間近のオオスズメバチの巣を採集する機会に恵まれた。防護服を装着して作業したが、ハチは少なく、問題なく掘り出すことができた。雄蜂が多数得られ、「手乗りスズメバチ」として人気者となり、巣は展示へ活用した。また、巣の内外にはオオスズメバチのほか、オオアカザトウムシ（鶴崎展巨先生同定）、クシヒゲハネカクシ幼虫、スズキベッコウハナアブの幼虫が見られた。ハネカクシ・ハナアブの幼虫は持ち帰り、2015年初夏、一部羽化に成功した。詳細は「すずむし」次号に投稿している。



### 「2015ムシアルバムから」 青野 孝昭氏



2015年には、ニホンミツバチが天敵に襲われる場面だけでなく、天敵のシオヤアブを団結して作った蜂球で熱殺する場面も観察できました。他にも、できる限り、フィールドへ出て、観察できた事柄をたくさん撮影しました。宝石蜂ともいわれるゴキブリのハンター、セナガアナバチの美しさに見とれ、習性の特異性に感心したりしました。コロギス、カヤコオロギ、イナゴモドキ、ルリモンハナバチなどに出会えたのも印象的でした。

### 「新見市草間台地のウスイロヒョウモンもどきの保護活動」 三宅 誠治氏



本種は、岡山県では馴染み深い蝶でしたが、1990年代になると減少しているとの噂を聞くようになり、保護の必要性も指摘されだしました。そこで1998～99年に棲息状況の調査が行われましたが、結果は予想を上回る危機的状況で

した。それを受けて、2002年に保護に対する検討会を開き、後の保護活動へと繋がっていきました。保護活動の中心は棲息地の草刈りで、地元住民の協力を得て実施しています。また、本種やそれを取り巻く自然環境を理解して貰うために勉強会を開き、成虫の発生に合わせて観察会も開催しています。既に保護の着手から13年が経過しましたが、この間、棲息環境は良好に維持されてきました。しかし本種の個体数は回復せず、2010年頃には更に減少し、いつ絶滅するか分からないまでになりました。そこで現在では人工的な繁殖も採り入れて、ぎりぎりのところで絶滅を防いでいる状況です。

### 「コンデジで蝶を撮る」中村 具見氏



今年は小型軽量で携帯性抜群のコンデジを多用し、どこまで蝶が撮れるか試してみました。手持ちでA E・A Fはカメラ任せの超楽ちん撮影ですが、ワイド系では如何に被写体に近づくか、1000mm以上の超望遠

では強力な手ブレ補正があっても如何にモニター視野内に捉えてシャッターを切るか大変でしたが、上手く撮れれば一眼レフとそれ程遜色もなく最近のコンデジの進化に驚くばかり。ゼフィルスを中心に今年撮影したものを紹介しました。

### 「カミキリムシの楽しみ」大森 斉氏

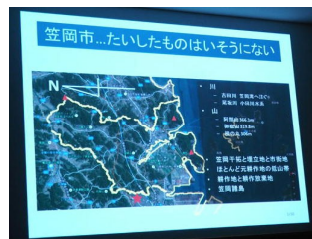
寒いシーズンは、家近くの山を散策し、カクレミノの枝にとまって成虫越冬することで知られる「タテジマカミキリ」の生態観察を行った。7年ほど続けている冬の楽しみである。どういう形の木の



のどんな場所を好むか、とか色々なことが段々分ってきた。枝の肌に巧妙に擬態しているが、10~20%は鳥などに捕食されるようである。4月末には一斉に目覚める。昆虫も、卵、幼虫、成虫、生態など総合して理解できると一層楽しい。

### 「笠岡の蝶」藤本 徹哉氏

県南西端の笠岡市とその周辺の昆虫はあまり調べられていない。虫屋にとってあまり魅力のない土地だからであろう。しかし、2008年以降の調査で71種の蝶を記録でした。意外な北方系のもの、RDB種も含まれて



いる。良好な二次林が多く残されており、他の昆虫相にも見るべきものがあると思う。今後の皆さんの調査の手が及ぶことを願って発表させていただいた。

## 「今年であった甲虫」

山地 治氏

環境別に県内の甲虫の画像を紹介し、昨年出会った甲虫についても少し触れました。昨年はどこどころにあるコイン精米機のコメヌカを調



査しました。今まで取りにくかった穀物害虫が何種類も生息していることが分かりました。数年前に国内で初めて確認されたホクベイコメクイゴミムシダマシという種がいるのですが、この種も県内の2か所で確認でき、どうやらすでに分布を広げてしまったようです。

## < 1年間をふり返って >

「レピ屋でチョウからスタートしましたが、最近はやガの方が中心になっています。昨年(2015年)はナイターを24回行いました。ただし、晩秋～冬～早春は糖蜜採集に切り替えています。条件がよいと結構集まってきて、厳しい寒さの中でも活動している姿に感銘を受けます。チョウでは南方系の進出に加えて従来のチョウの中にも分布を広げているものがあり、これからも観察を続けたいと思っています。」(岡野 貴司)

今年は転勤もあり、あまりフィールドに行けませんでした。それでも6月は備前市周辺でウラナミジャノメの新産地を数カ所確認。真庭市でオオヒカゲ、キマダラルリツバメの撮影ができました。4月以降、自宅で飼育中のニホンミツバチは何度も分蜂(封)したので、近隣の方々に里親になってもらい、現在も多くの群が越冬中です。8月は蒜山でゴマシジミ、オオヒカゲを観察、晩秋になって、地元でシルビアシジミ、アキアカネの確認ができたところがあったのが良いニュースでした。

以上、よろしくお願いします。」(末宗安之)

「今年もシーズン中、良くフィールドへ出掛けました。ネットは横へ置き、もっぱらカメラで、身のまわりにいる、ごく普通の虫さんたちとも親しく対面してきました。カメラで接していると、虫を採ることに専念していたときには気づかなかったことがよく見えるようになり、虫さんたちが愛おしくなります。来年は、どんなドラマが見えるか、今から楽しみです。」(青野孝昭)

「天候不順で昆虫たちにとっても、我々にとっても大変でした。出会えなかった虫達はどのようにしているのでしょうか？温暖化が進むにつれて昆虫相の変化が気になりますね。会員の皆様の情報が楽しみでした。」(澤田愛子)

「今年は、あまり採集に行きませんでした。小さい甲虫を多く採集することができました。来年は、さらに多くの昆虫を採集したいと思います。」(武田寛生)

「今年は、ヒラズゲンセイをたくさん見ることができました。来年は、もっと採集しに行きたいです。」(武田雅生)

「自宅周辺地域の甲虫調査も11年が経過しました。5年前からはFITによる採集も取り入れておりますが、予想以上の成果に驚いています。これまで微少な種は採集されていなかったもので、この方法での採集により、今まで県内で記録されていなかった種が多く含まれるようになり、これまでで県内初記録種は60種余りとなりました。これからも様々な方法で調査を試み、体力が続くかぎり県内の甲虫相の解明に励みたいと思っています。」(岡本 忠)

「今年は、ベニイトトンボを調べました。来年は本腰を入れて生態を調査しようと思っています。うまくまとめができればいいのですが。(宣言したからにはするしかありません。ちょっと自分を追い込ませていただきました。)早いもので、トンボを始めて25年になりました。重井先生や小野先生、奥島先生にお世話になって、はじめは昆虫館や自然史博物館にもよく出入りしていました。気づけば、もう59歳になり、以前のように精力的に動くことはなくなりました。それでも、トンボの生態はまだまだ分からないことが多く残されており、アマチュアの研究の分野がたくさんあります。これからも、興味のあること、誰も調べたことがないことを、与えられた時間をふんだんに使って、調べたいと思っています。また、これからトンボに興味をもって調べる人のために、岡山県のトンボ研究史やトンボをまとめたものをどこかに発表できればとも思っています。34歳の時、種松山で見つけたトンボに興味をもって以来、四半世紀の間、トンボは私の人生の一部でした。これからも、人生の一部であり続けると思います。」(守安 敦)

「(参加者名) 岡本忠、澤田博仁、織田明文、三宅哲人、奥島雄一、加藤学、伊藤珠実、脇本浩、武田雅生、武田寛生、岡野貴司、近藤光宏、中村具見、藤本徹哉、青野孝昭、山路治、小橋理絵子、中原一儿、渡辺昭彦、三宅誠治、広瀬正明、末宗安之、大森香、川上義弘、守安敦 以上25名」

---

## 倉敷市立自然史博物館の催しもの案内

---

### ◎特別陳列「新着資料—近藤光宏昆虫コレクション展」

昨年、当館に寄贈された近藤光宏(こんどうてるひろ)氏の収集された昆虫標本コレクション約1万5千点を一堂に展示公開します。昭和から平成にかけて、主として岡山県界隈で採集された標本が並びます。

- ◆会期：2016年4月16日（土）～6月19日（日）
- ◆会場：自然史博物館3階特別展示室
- ◆料金：通常料金

### ◎特別陳列「おりがみ昆虫展 Origami Insects」

日本文化と自然史のコラボが実現！若手折り紙作家江頭聖大（えがしらまさひろ）氏の昆虫を題材としたオリジナル作品十数点を展示。あわせてモデルとなった昆虫の実物標本も展示します。

- ◆会期：2016年4月16日（土）～6月19日（日）
- ◆会場：自然史博物館3階特別展示室
- ◆料金：通常料金
- ◆展示作品：カブトムシ／オオクワガタ／カミキリムシ／ジョウカイボン／アゲハ／チョウトンボ／ナナフシモドキ／タガメ／ノコギリクワガタ／ミヤマクワガタ／トノサマバッタ／オオカマキリ／サトジガバチなど

### ◎博物館講座「昆虫おりがみ教室」

ちょっと本格的な昆虫おりがみ「アオスジアゲハ」に挑戦してみましよう。「おりがみ昆虫展」の作者がやさしく教えてくれます。

- ◆日時：2016年6月11日（土）
- 午前の部：10時～11時30分（受付9時30分～10時）
- 午後の部：14時～15時30分（受付13時30分～14時）
- ◆会場：自然史博物館地階講義室
- ◆講師：江頭聖大（折り紙作家）
- ◆申込み・定員：6月10日（金）までに電話で自然史博物館まで。ただし、各回申込み順先着36名、両方の回へのお申込みはできません。小学生以下は保護者同伴でお申込みください。
- ◆参加費：通常観覧料金（展示室でのトークを含みます）
- ◆持参品：折り紙（1辺15cm以上のものがおすすめ）

### ◎自然観察会「おかやま自然探訪49」

旧加茂川町へおじゃまして岩石・植物・昆虫・動物などを観察します。

- ◆日時：2016年5月22日（日）10時～14時（受付9時30分～10時）
- ◆集合場所：吉備中央町高富 化氣（けぎ）神社駐車場
- ◆持参品：筆記用具、観察用具、昼食・飲料水、雨具、救急用品など
- ◆申込み：5月21日（土）17時までに電話などで自然史博物館へ。中学生以下の方は保護者同伴でご参加ください。

◆交通案内：公共交通機関の便が良くないので自家用車などでご参加ください。集合場所に駐車できます。

◆備考：雨天決行。ただし警報発令時などは中止します。天候があやしい場合は、当日朝8時以降に友の会携帯電話（090-8242-3896）までお問い合わせください。

### ◎自然観察会「おかやま自然探訪50」

美作市（旧作東町域）へおじゃまして里山を歩きながら、岩石・鉱物・植物・昆虫・動物などを観察・採集します。

◆日時：2016年6月26日（日）10時30分～14時30分（受付10時～10時30分）

◆集合場所：美作市江見945 バレンタインパーク作東グラウンド東端駐車場

◆持参品：筆記用具、観察用具、昼食・飲料水、雨具、救急用品など。防虫対策と熱中症予防対策をお願いします。

◆申込み：6月25日（土）17時までに電話などで自然史博物館へ。小学生以下の方は保護者同伴で申込んでください。

◆交通案内：今回は公共交通機関の便が良くないので自家用車などでご参加ください。集合場所に駐車できます。中国自動車道作東ICを降りて右折、「バレンタインパーク作東」を目指してください。作東ICから約2km。

◆備考：雨天決行。ただし警報発令時などは中止します。天候があやしい場合は、当日朝8時以降に友の会携帯電話（090-8242-3896）までお問い合わせください。

◇ご利用案内◇

開館時間：9時～17時15分（最終入館は16時45分）

入館料金：一般：150円（100円）、大学生：50円（30円）

（ ）内は20名様以上の団体料金

高校生以下、65歳以上の方：無料

休館日：月曜日（ただし、祝日または振替休日の場合は、その翌日）

交通案内：JR倉敷駅より南へ約800m 最寄りの駐車場：「市営中央駐車場」（博物館に隣接）

問い合わせ先：倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 倉敷市中央2-6-1 電話 086-425-6037

E-MAIL [musnat@city.kurashiki.okayama.jp](mailto:musnat@city.kurashiki.okayama.jp)

URL <http://www2.city.kurashiki.okayama.jp/musnat/index.htm> （奥島雄一）

---

---

### 【新会員】

会員番号	氏名	住所	興味ある分野
No.518	藤谷俊二		水生昆虫
No.519	山本俊秀		トンボ類
No.520	加門昭徳		蝶

## 【退会会員】

渡部晃平氏（石川ふれあい昆虫館勤務：石川むしの会会員）

## 【交換文献】

(2015.11.1 2～2016.4.1 4 受付分)

Nature Study 61(10),(11),(12),62(2),(3),(4)	大阪市立自然史博物館友の会
日本応用動物昆虫学会中国支部会報 (57)	日本応用動物昆虫学会中国支部
大阪市立自然史博物館報 (40)	大阪市立自然史博物館
大阪市立自然史博物館研究報告 (69)	〃
大阪市立自然史博物館 自然史研究 3(16)	〃
大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 (47集) 甲 虫目録 (32)	〃
誘蛾灯 (222),(223)	誘蛾会
KORASANA (84)	久留米昆蟲同好會
久留米虫だより(225),(226),(227),(228)	〃
へりぐろ (37)	瀬戸内虫の会
すかしば (63)	山陰むしの会
いもむしだより (116)	〃
ゆらぎあ (33)	鳥取昆虫同好会
蛾類通信 (275),(276)	日本蛾類学会
TINEA 23(3)	〃
みちしるべ (52)	岡山昆虫談話会
駿河の昆虫 (251),(252)	静岡昆虫同好会
ちゃつきりむし (185),(186)	〃
広島虫の会々報 (54)	富山県昆虫同好会
神奈川自然史資料 (37)	神奈川県立生命の星・地球博物館
庄原市立比和自然科学博物館研究報告 (57)	庄原市立比和自然科学博物館
庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告 (15)	〃
とっくりばち (83)	石川むしの会
インセクト 66(2)	とちぎ昆虫愛好会
比婆科学 (255)	比婆科学教育振興会
山口のむし (15)	山口むしの会
ちょうしゅう便り (29),(30)	〃

<倉敷昆虫同好会 連絡先> 年会費 2,000円 郵便振替口座 01210-2-6927  
 〒710-0051 倉敷市幸町2-30 倉敷昆虫館内 倉敷昆虫同好会事務局  
 TEL. 086-422-8207(直通) FAX. 086-421-1991 E-メール kurakon@shigei.or.jp  
 開館：午前9時30分から午後5時まで（13:00から14:00は閉館）  
 休館日：月曜日（祝日・休日の場合は開館し、翌日が休館）、12月29日から1月3日